

CONCEPT

稚内地産地消文化村 港コミュニティ

日本最北文化の発信・創造

稚内の都市観光の拠点創り
市民も楽しめる空間創り

「稚内らしさ」と「集い」をテーマに街づくりの観点にたち、多機能で新しい港コミュニティを創出する。

「見る」「買う」「食べる」「あそぶ」「休む」「学ぶ」機能を有し、人々がスローな時を過ごすそんな場づくりをします。

“日本最北の文化の再構築”

市民と観光客のコミュニティがここからはじまる。

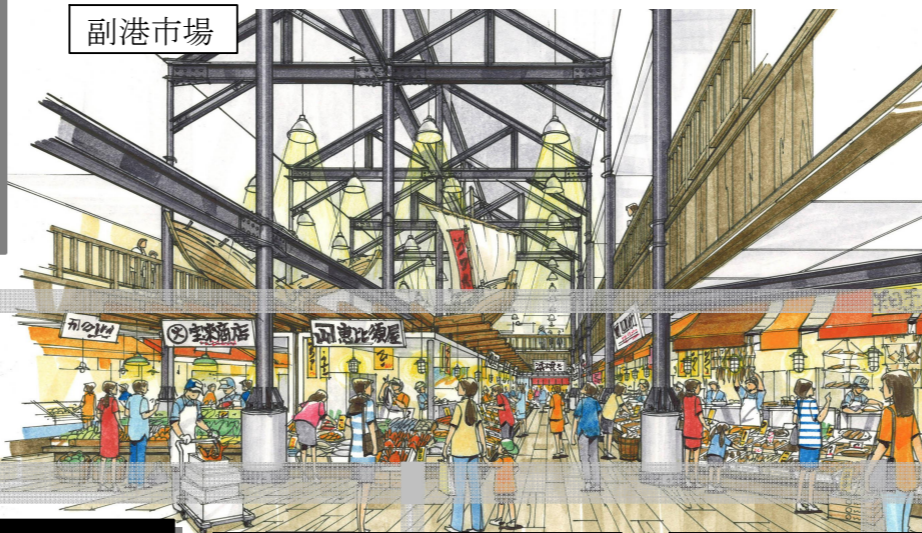
稚内の歴史と文化、資源を継承し、未来への繁栄の架け橋となる社会的意義のある取組みです。

1F

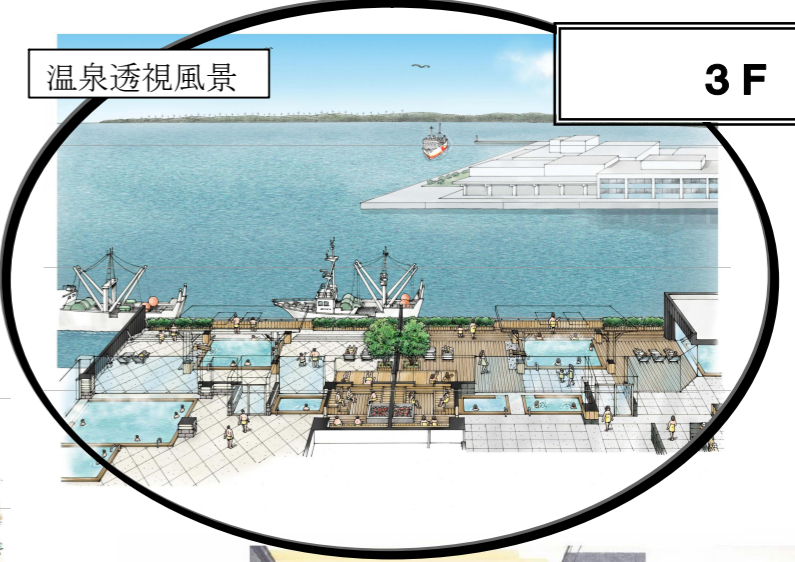
第一副港複合施設



副港市場



温泉透視風景

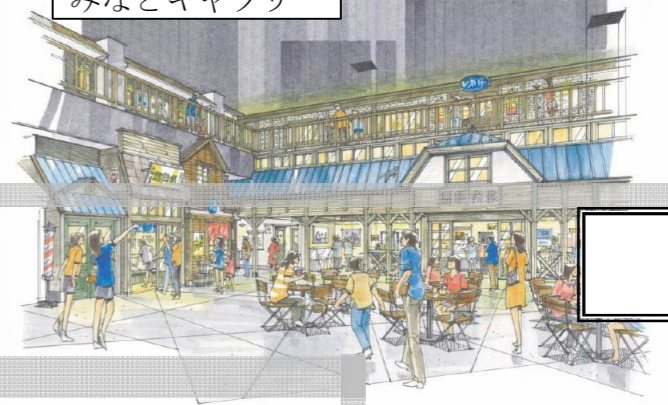


3F

みなと屋台広場



みなとギャラリー



2F

「海の恵み」ゾーン

稚内やその周辺で獲れる、新鮮な魚介類を販売するゾーン。生産者の顔の見える販売方法で、カニや鮭類に偏らず、漁獲高の低い魚も取り扱い、雑魚の付加価値創造にも貢献する。地元の住民を主な客層と捉えた商品構成とする。

「大地の恵み」ゾーン

宗谷エリアの酪農品や畜産品・加工品を直売。生産現場や製造方法の紹介も同時に行い、地域の食文化向上に貢献する。また、日常生活に必要な業種も配し、街の台所としても機能する業種を配する。

「イベント広場」ゾーン

施設内に吹抜空間の広場を設け、市民活用を主体としたスペースを確保する。一週間単位で変わるイベントや、市民主催の展示会や手作り商品の販売を催し施設内の賑わいを演出する。広場内には、コミュニティFMのサテライトも設け、街の情報発信の機能を担う。

「みなとギャラリー」ゾーン

稚内の水産と港湾の歴史、沿革等、港湾と生活の結び付きを紹介すると共に物販店も点在するギャラリー&ショップの融合スペース。また、隣島サハリンの情報を発信するコーナーも設け、来訪者のサハリン観光意欲を喚起する役割も担う。

「みなと屋台広場」ゾーン

昔の稚内の街並みを造りこんだ横丁空間の中で、出店コストが比較的安価に済む、「屋台」形式を採り、地元の産物を主に提供する飲食・物販ゾーン。広く一般公募を行い、市民の起業を促進し、新たな産業の創造・発展を目的とする。

「北のガラス館」

現存の石造り倉庫を活用し、稚内市の新たな産業としてガラス工芸の発展を図る。サハリンと北をイメージした独自の色をガラスに施し、北の文化の創出を全国にアピールする。ガラス職人による体験工房や喫茶部門の確立により、市民に大きく受け入れられたい。

「レストラン」ゾーン

近海で獲れた新鮮な魚介類や畜産品等の宗谷の食材を楽しめるレストランゾーン。カジュアルに、フォーマルに、宗谷の美味しさを味わい利用者に憩いのひとときを提供する。